

2020年度

事業報告書



Meitoku
since 1925

学校法人千葉明德学園

目 次

I. 法人の概要 -----	1
1. 法人の名称-----	1
2. 事業所の所在地-----	1
3. 建学の精神-----	1
4. 法人の沿革-----	1
5. 設置する学校-----	2
6. 附帯事業-----	2
7. 姉妹法人-----	2
8. 役員-----	2
9. 教職員の状況-----	3
10. 土地及び建物の状況-----	3
11. 学生・生徒・園児の数-----	4
II. 事業の概要 -----	5
1. 学園全体の状況-----	5
2. 法人事務局-----	5
3. 千葉明德短期大学-----	7
4. 千葉明德高等学校-----	10
5. 千葉明德中学校-----	13
6. 千葉明德短期大学附属幼稚園-----	15
7. 明德本八幡駅保育園-----	17
8. 明德浜野駅保育園-----	19
9. 明德やちまたこども園-----	20
III. 財務の状況 -----	22
1. 事業活動収支の推移-----	22
2. 施設設備への投資額の推移-----	23
3. 借入金の推移-----	23

I. 法人の概要

1. 法人の名称

学校法人千葉明德学園

2. 事務所の所在地

千葉県千葉市中央区南生実町1412番地

電話番号 : 043-265-1611

FAX番号 : 043-265-1651

URL : <https://www.chibameitoku.ac.jp/>

3. 建学の精神

「明明徳於天下者先致其知」 明德を天下に明らかにせんとする者は、先づその知を致せ。

法人名及び開設する全ての学校、施設名に用いられている「明德」は、中国の古典「大学」の一部にある「明明徳於天下者先致其知」（明德を天下に明らかにせんとする者は、先づ其の知を致せ。）を引用したものである。

「明德」の由来は、約2000年昔の中国の古典「大学」にある。「大学」といっても高校を卒業してから行く大学のことではなく、「小学」に対する「大学」の意味である。「小学」とは「小さな学問」、いわゆる、よみ・かき・そろばん、といった個人が生きていくために必要な身の回りの基礎的な学問で、一方、大学は小学よりもっとレベルの高い大きな学問 — 自分が生きるためではなく、世のため、人のためになる学問を意味する。「大学」には、大学を究めるためにはどうしたらよいかのかが次のように書かれている。

「大学の道は明德を明らかにするにあり」

「明德」とは人が天から得たすぐれた能力、人間として生まれながらに持っている人間性であり、明德を明らかにする、とはそれを輝かせる、ということであり、それこそが本学園の使命である。

4. 法人の沿革

1925年	1月	千葉淑徳高等女学校 設立 創立者 福中儀之助 初代校長に就任 (千葉市登戸町3丁目)
	4月	開校式 挙行 (定員600名)
1943年	7月	財団法人千葉淑徳高等女学校となる
1947年	5月	学制改革により千葉明德高等学校・同中学校に改組
1951年	1月	学校法人化し、学校法人千葉明德学園となる
1963年	4月	高校男子部の新設
1964年	10月	千葉市中央区南生実町へ全校移転
1966年	5月	体育館 竣工
1967年	5月	千葉明德学園幼稚園 設置認可
1970年	1月	千葉明德短期大学 設置認可
	4月	千葉明德短期大学 開学
1972年	4月	千葉明德中学校最終卒業生高校進学 以後休校 千葉明德学園幼稚園から千葉明德短期大学附属幼稚園に改称

1974年	4月	高校 男女共学となる
1992年	7月	現理事長 福中儀明 理事長就任
2003年	10月	明德本八幡駅保育園 開園
2006年	4月	社会福祉法人千葉明徳会 設立 明德土気保育園 開園
2010年	4月	明德浜野駅保育園 開園
2011年	4月	千葉明徳中学校 開校
2012年	3月	千葉市と「避難所施設利用に関する協定」締結
2013年	4月	社会福祉法人千葉明徳会 明德そでの保育園 開園
2015年	3月	学校法人北総学園と合併
	4月	明德やちまたこども園 開園
2018年	4月	千葉明徳短期大学附属幼稚園 幼稚園型認定こども園に移行
2020年	4月	社会福祉法人千葉明徳会 明德土気保育園 幼保連携型認定こども園 明德土気こども園に移行

5. 設置する学校

- (1) 千葉明徳短期大学 保育創造学科
- (2) 千葉明徳高等学校 全日制課程普通科
- (3) 千葉明徳中学校
- (4) 認定こども園千葉明徳短期大学附属幼稚園
- (5) 明德やちまたこども園

6. 附帯事業

- (1) 明德本八幡駅保育園 (第二種社会福祉事業)
- (2) 明德浜野駅保育園 (第二種社会福祉事業)

7. 姉妹法人

社会福祉法人千葉明徳会 (明德土気こども園・明德そでの保育園を運営)

8. 役員 (2021年3月31日現在)

理事長	福中	儀明
副理事長	鈴木	總美
理事	金子	重紀 (千葉明徳短期大学学長)
理事	園部	茂 (千葉明徳中学校・高等学校校長)
理事	北村	都美子
理事	南	金次 (内部監査室長)
理事	木原	稔 (事業開発室長)
理事	高浦	芳一
監事	荒木	由光
監事	神子	信行

9. 教職員の状況（専任教職員数及び平均年齢）（2021年3月31日現在）

	人員数	平均年齢
短期大学教員	18名	46.2歳
高等学校教員	54名	43.3歳
中学校教員	15名	39.6歳
幼稚園教員	20名	35.8歳
本八幡駅保育園	13名	39.2歳
浜野駅保育園	9名	38.0歳
やちまたこども園	13名	38.4歳
事務職員	30名	42.9歳
合計	172名	41.4歳

（注）役員（理事）は除く

10. 土地及び建物の状況

(1) 土地の状況（2021年3月31日現在）

	法人	千葉明德 短期大学	千葉明德中学校 ・高等学校	千葉明德短期大学 附属幼稚園	やちまた こども園	合計
校地	0	13,005	67,975	4,550	2,871	88,401
その他の土地	472	0	0	0	0	472
合計	472	13,005	67,975	4,550	2,871	88,873

(2) 建物の状況（2021年3月31日現在）

	法人部門	千葉明德 短期大学	千葉明德中学校 ・高等学校	千葉明德短期大学 附属幼稚園	やちまた こども園	合計
校舎	0	3,844	12,016	1,712	705	18,277
附属施設	0	0	3,419	0	0	3,419
その他の建物	0	10	48	0	0	58
合計	0	3,854	15,483	1,712	705	21,754

11. 学生・生徒・園児の数

(2020年5月1日現在)

部門	入学定員	収容定員	学生・生徒・園児数		
千葉明德短期大学	120名	270名	215名	1年	120名
				2年	95名
千葉明德高等学校	400名	1,200名	1,048名	1年	311名
				2年	384名
				3年	353名
千葉明德中学校	120名	360名	217名	1年	71名
				2年	76名
				3年	70名
千葉明德短期大学 附属幼稚園	(1歳児) 15名	315名	280名	1歳児	15名
	(2歳児) 15名			2歳児	15名
	(3歳児) 95名			3歳児	66名
	(4歳児) 95名			4歳児	86名
	(5歳児) 95名			5歳児	98名
明德本八幡駅保育園		45名	50名	0歳児	12名
				1歳児	20名
				2歳児	18名
明德浜野駅保育園		36名	40名	0歳児	5名
				1歳児	7名
				2歳児	7名
				3歳児	7名
				4歳児	8名
				5歳児	6名
明德やちまた こども園		75名	82名	0歳児	6名
				1歳児	8名
				2歳児	10名
				3歳児	21名
				4歳児	21名
				5歳児	16名

Ⅱ. 事業の概要

1. 学園全体の状況

2020年度の学園財政の状況は、事業活動収入24億2,689万円に対し、事業活動支出23億1,615万8千円となり、基本金組入前当年度収支差額は、1億1,073万2千円の収入超過となり、2012年度から9期連続で収入超過となった。(詳細は「Ⅲ. 財務の概要」に記載) 入学(園)者の減少傾向が見られる部門もあることから、更なる経営改善に向けて学生募集改善を柱とした抜本的な取り組みを行っていきたい。

各部門に目を向けると、短期大学については2020年度募集から定員を120名に減員し、その確保を最重要課題として取り組んできたが、(今年度取り組んだ)2021年度募集については定員を超える124名の入学者を獲得し、昨年度に続き2年連続で定員を超える入学者を獲得した。学生生徒納付金収入・経常費補助金収入の増加により収支も改善され、学園の安定的な経営にも大きく寄与している。

高等学校、中学校についてはコロナ禍において募集活動の変更も余儀なくされ、その影響もあって受験生、入学者とも募集定員には満たなかった。(高等学校入学者330名、中学校入学者62名) 一方で、受験者の学力の向上、大学合格実績の向上という傾向も見られる。今後も大学進学実績の更なる向上を追求し、様々な取り組みを積極的にを行い、募集の改善に繋げていきたい。

認定こども園千葉明德短期大学附属幼稚園については、短大教授を園長に据え、短大教員との連携による保育の質向上に取り組んだ。また、コロナ禍においても安全・安心に十分に配慮した来園型イベントを増発し、ホームページの更新頻度を高めるなど、積極的な募集活動を展開した結果、昨年度を上回る67名の1号認定(3歳)新入園児を獲得し、募集の改善に向けてその兆しが見えた。

一方、明德本八幡駅保育園、明德浜野駅保育園、明德やちまたこども園の保育事業3園については昨年度同様、各園とも定員を超える数の園児を確保し、各園の運営方針、保育並びに教育目標に基づき安定した運営が出来た。

各園とも教職員のきめ細やかな対応や時間を掛けて計画した行事や取り組み等を通して、地域に根ざした園になっている。

2. 法人事務局

(1) 中学校・高等学校部室棟の新築

6月に中学校・高等学校新部室棟「CHIBAMEITOKU 桜坂 Training Center」が完成した。1FにはWi-Fi環境を整備したミーティングルーム、11種類21台のトレーニング機器を設置したトレーニングルーム、2、3階にはスチール棚等の什器備品が配置された各部室があり、部活動、授業等で大いに活用している。今後、各部活動の更なる

活躍を期待したい。

(2) 第2グラウンド用地整備

用地整備の対象地（実測約8.7ha）については、2018年度から関係地権者の方々と協議を進め、用地の確保は賃貸借（借地）によることとし、2020年には土地賃貸借契約の締結に至り、12月から借地を開始した。一部の農地部分は、農地法の許可が条件となることから、2021年中の開始を予定している。

また、用地の整備にあたっては、土地造成を行うため、都市計画法および森林法に基づく開発行為の許可を必要とし、そのための手続きを、千葉市および千葉県と2020年1月から順次進めてきている。その中で、土地利用の用途はテニスコート、多目的グラウンド（サッカー場仕様）及び多目的広場とし、またそれらに関わる市道の整備、排水対策などについて協議調整を行っている。これらの開発許可は、2021年中を見込んでいます。

(3) テニスコートの新設(オムニコート)及び改修

高等学校グラウンドの西側の既存テニスコート2面を全面改修するとともに、隣接した場所に一面を増設し、オムニコート(砂入り人工芝)仕様のテニスコート3面の新設を行った。また、地方大会が開催できる程度の照度をもつ照明設備も新設した。近年、硬式テニス部の部員数は、時代の流行もあり増加を続け、現在70名超となっている。2021年度は強化指定クラブとなる予定であり、今後の活躍が期待される。

(4) 働き方改革への対応

2019年4月から始まった中小企業対象の「働き方改革関連法案」施行に伴い、教職員の労働時間の把握、長時間労働抑制等を目的としてタイムカードからICカード認証による勤怠管理システムを導入した。

短期大学においては、教授、准教授、専任講師については、2021年度からの専門業務型裁量労働制の導入に向けて、長時間労働、過重労働の改善を視野に入れながら、教員が自己の裁量により研究及び短大での授業等業務に従事することについて、話し合いを重ねた。2021年3月には、短期大学の教員代表と専門業務型裁量労働制に関する協定を締結し、労基署への届け出を終えた。

中学校・高等学校においては、労使間で36協定を締結した上で1年単位の変形労働時間カレンダーを作成し、労働時間管理を行った。他に、長時間労働の抑制、部活動の指導の在り方、業務の効率化等について、定期的に話し合う機会を設けた。今後も教育の質を落とすことなく、労働環境改善について検討していく。

また、年次有給休暇5日取得の義務化については、部門ごとに年間スケジュール等を再確認し、全教職員が5日取得を100%達成した。

(5) 寄付金事業の充実

2019年度から募集を開始した学校法人千葉明德DREAM&CHALLENGE募金であるが、2020年度はこれまで募集の主対象であった高等学校卒業生に加え、取引企

業に対して積極的な勸奨活動を実施した。結果、前年を大幅に上回る73件、4,444千円の寄付が集まり、大幅な増収に繋がられた。

また、寄付者へのお礼として、本学園ホームページへの寄付者ご芳名の掲載、返礼品(今治タオル)の作成、配布を始めた。

(6) 新型コロナウイルスへの対応

2020年度が始まって早々、政府から緊急事態宣言が発令され、各部門は休校、休園、または保護者が医療従事者等である園児を優先しての受入れ等、業務の縮小を余儀なくされた。学園では対策本部を設置した上で連絡会議を実施し、また緊急連絡網等の整備も行い、感染者発生等の情報収集、発信等、迅速な対応に努めた。宣言解除後は各部門の行政の方針の下での業務再開であった。オンライン授業、分散登校、限定開園等制限を設けて業務を段階的に再開し、通常業務に戻るまで約3カ月の期間を要した。その後、新型コロナウイルスの第2波、第3波が続いたが、感染防止対策を徹底し、制限付きではあるが、式典、行事等を執り行うことができた。今後も最新の情報を取り入れて、対応を強化し、学生・生徒・園児及び教職員の安全と教育の質の維持・向上の両立を図っていきたいと考える。

3. 千葉明德短期大学

本年度は、ここ数年の課題である学生募集を最重要課題とし、カリキュラム改革に向けた教育内容の充実を基本的な方針として運営に取り組んできた。

(1) 教育活動の取り組み及び学生支援

①教育と保育実践の連携

“総合保育創造組織”としての附属幼稚園、明德本八幡駅保育園、明德浜野駅保育園、明德やちまたこども園及び系列の明德土気こども園、明德そでの保育園は、本学学生の実習先であることはもちろん、ボランティア、有償研修(アルバイト)等、様々な形で保育現場に入り、学びを深めている。また、学生の就職先という観点から本学内で就職説明会を開催し、共に学び続ける保育創造組織の仲間の育成についても連携を深めてきた。ただし、本年度においては、新型コロナウイルス感染拡大の影響から、ボランティア、有償研修(アルバイト)等についてはほとんど行えなかった。しかし、1学年の保育内容演習については可能な限り行い、連携による育成を最低限行ってきたと言える。

また、本年度から、同じ敷地内にある附属幼稚園の園長を本学の明石現教授が兼務することとなり、園内研修に短大の教員が参加する等、連携して保育の質向上を目指す取り組みを始めた。その成果として、本年度の短期大学の紀要には附属幼稚園の教員と短大教員の連名による著作が掲載された。

②教育課程での取り組み

本学の学びの原点である「体験から学ぶ」、「学び合う」を実現するとともに、個々

の学生に対する支援の充実が本学の教育の中心である。しかし、本年度は、新型コロナウイルス感染症の問題から、対面授業がほとんど行えず、遠隔による授業が中心となった。後期については、オンライン授業を導入するとともに、1学年については、通年の教育実習を日数は減ったものの実施し、保育内容演習を中心として可能な限り「体験から学ぶ」、「学び合う」の実現に努めた。2学年についても、実習指導、ゼミ、現代社会論等で対面授業を維持し、学生と教員の関係を図ってきた。

このような状況の中で、学生の学ぶ意欲の低下も危惧されたところであるが、1学年の退学者は5名にとどまり、2学年の退学者は1名であった。

逆に、オンライン授業によるメリットも認識することができた。例えば、繰り返し学ぶことが可能であることや書かせることを意識的に指導した結果、書くことに対する学生の抵抗感が薄くなったこと等である。

また、これらの取り組みを通じて、新型コロナウイルス感染症問題下の状況にあっても学生に対する教職員の就職支援を充実させることはできたと考えられ、就職決定率は98.8%を達成することができた。

就職に関して本年度は公務員（公立保育所）の合格者が例年に比べて多かった。千葉市は、本年度から採用試験（1次）について一般教養を廃止し、専門科目のみの実施とし、それにより1次合格者が多く出た。このことは、本学での専門的な学びが試験にも活きる優れた内容であることを示すものである。そして、本年度に関しては、幼稚園・こども園への就職が増加した。この傾向が続くかどうかは、まだわからない。

また、2021年度に向けて、カリキュム改定を行った。文部科学省の新課程に完全に対応していなかったものを（5年の猶予期間あり）、本学のこれまでの特色を堅持しつつ、新課程に対応したものへと改定し、文部科学省・厚生労働省ともに認可された。2021年度入学生から新課程となる。

③教育課程外の取り組みの充実

教育課程外での取り組みとして、卒業生が保育現場に勤務しながら月に2回程学校に戻り、現場での体験を基に教員と学びを深める「保育臨床研修コース」（研修生制度）を開講する予定であったが、本年度希望者はいなかった。

2018年度まで行ってきた「明德あそぼうカー」の取り組みを再開することができた。今後の新たな展開も模索している。

その他、公開講座「めいトーク」は、コロナの影響で秋に規模を縮小して実施、「教員免許状更新講習」は企画をしたが、残念ながら中止とした。

子育て支援事業である「たいむ」については、コロナの影響で、開催日と規模を縮小して実施するにとどまったが、ちば産学官連携プラットフォーム事業の「こども子育て支援連携ワーキンググループ」の活動として家庭での保育に役立つ映像資料を作成した。

また、千葉市と千葉市内の三短大（千葉経済大学短期大学部、植草学園短期大学、

本学) と連携事業(2015年度からスタート)として、下記の講座を実施した。

- 「千葉市子育て支援員研修」の「基本研修」と「現任研修」の委託を受けて、研修を実施した。
- 「潜在保育士研修」、「キャリアアップ研修」の委託を受けて、研修を実施した。
- 現場保育士のさらなる学びのためのサバティカル研修を実施した。

(2) 学生募集の取り組み

2020年度から募集定員を120名に変更した下で学生募集を行った。その結果、2021年度の入学者数は124名に達した。本学の入学試験制度により定員を充足したため、離職者等再就職訓練生(保育士養成コース)は受け入れなかった。これは、保育者養成校志願者の減少傾向の下、競合校との競争も激化していると思われる中、基本的な方針を維持しつつ、オープンキャンパス、高校訪問等を通じ、より確実に一人ひとりの受験生に本校の魅力を伝え、個々の受験生の希望が本学で実現できることを理解されるよう徹底した募集活動を全学的に行い、ここ数年積み上げてきた結果であると考えられる。入試においても個々の受験生の要望に応じた多様な受験方法(特待生試験(音楽、小論文)、保育体験入試)を用意し、個々の受験生に対応する本学の姿勢を示す効果があったと考える。(保育体験入試等は受験者なし)

(3) まとめ

本年度は、新型コロナ感染問題に振り回された一年であったが、この状況下にあっても最低限、本学の学びの原点である「体験から学ぶ」「学び合う」の実現を図ることはできたと考える。どのような状況にあっても、一人ひとりの学生に対する丁寧な支援を実践することを意識した年度であった。その成果として、退学者の減少、就職決定率98.8%を達成できたものとする。

(4) その他

2020年度卒業生(50回生)就職状況 (2021年3月31日現在)

卒業生数	91人
就職希望者数	86人
就職決定者数	85人
就職決定率	98.8%

(就職先内訳)

就職先種別	人数	比率
幼稚園	9人	10.5%
認定こども園	17人	20.0%
保育所	34人	40.0%
福祉施設(保育所を除く)	17人	20.0%
認可外保育施設・学童保育	1人	1.2%
公務員	6人	7.1%
公立臨時採用	0人	0%
一般企業等	1人	1.2%

学生の就職先に関しては、保育所への就職率が高い傾向が続いているが(これは本学に限らず多くの養成校での傾向でもある)、本年度は、幼稚園・こども園への就職が例年に比べて多かった(こども園のほとんどは幼稚園ベースであり、幼稚園への就職ととらえられる)。2019年度は保育所が51%、幼稚園・こども園が18%であったが、本年度は保育所39%、幼稚園・こども園30.5%となっている。本年度限りのことなのか、この傾向が続くのかは、語るだけのデータはまだない。依然として保育所志向が高いことに変わりはない。

また、2年間の学びの中で、福祉施設への関心が学生の中で強くなる傾向があり、福祉施設の職員不足にも対応して増加傾向を示している。

4. 千葉明德高等学校

この1年間、コロナ禍において、授業をはじめ多くの学校行事を取りやめにせざるを得ない状況の中で、厳しい学校運営を迫られてきた。そんな中、生徒募集では330名の新入生を迎えることが出来た。コロナ禍の難しい状況にあっても、目標を見失うことなく頑張った生徒、様々な工夫を凝らしながら教育づくりを進めてきた教職員全員の成果である。この間、進めてきた『進学校化』という学校改革目標の下、現役生の4年制大学への進学率は5年連続で70%を越え、名実ともに進学校としてのイメージが定着してきた。そんな中で2020年度は、この10年間の学校改革の到達点の上に、2030年を見据えた教育の方向性(中長期方針)を『思考する学びへの進化』と定め、教育活動を展開してきた。

(1) 教育活動の取り組み

- ①「思考する学び」を深めるため、ICT機器を活用し授業の効率化を図った。そこから生まれた時間でプレゼンテーション、ディベート、グループワーク等、生徒が主体的に考え、学び合う機会を増やしていった。
- ②大学入試改革元年に対応するため進路学習指導室を設けた。同室に特別進学コース・中高一貫コースの職員室も併設し、特に一般受験へ対応しやすい体制を整えた。自習室も三ヶ所整えた。
- ③ICT環境を整え、全員がiPadを持った教育の展開も4年目となった。コロナ禍にあっても、教職員の合い言葉である『生徒の学びを止めない』という認識を確認し、即時時間割に沿ったオンライン授業を展開することができた。
- ④本年度6月、念願の部室棟(CHIBAMEITOKU 桜坂 Training Center)が完成した。生徒にとってコロナ禍での辛いことばかりの中で、夢と希望を感じる出来事となった。授業や部活動で大いに有効活用し、生徒の更なる活躍に結びつけていきたい。

(2) 進路指導について

2020年度卒業生353名の進路実績は以下の通りである。

	男子	女子	合計	比率
国公立4年制大学	4	3	7	2.0%
私立4年制大学	145	102	247	70.0%
短期大学	1	12	13	3.7%
各種専門学校	15	38	53	15.0%
就職(公務員)	4	2	6	1.7%
その他(浪人・留学等)	23	4	27	7.6%
総合計	192	161	353	100%

【主要大学の合格実績】 (浪人含む)

東京芸術大学1名、茨城大学2名、金沢大学1名、国立看護大学校1名、公立鳥取環境大学1名、静岡県立大学1名、千葉県立保健医療大学1名

早稲田大学2名、慶応義塾大学1名、上智大学1名、東京理科大学9名、明治大学5名、青山学院大学3名、立教大学7名、中央大学7名、法政大学10名、学習院大学1名、立命館大学1名、東京女子大学1名、成蹊大学4名、成城大学4名、武蔵大学8名、明治学院大学2名、獨協大学5名、國學院大學7名、昭和大学1名、東邦大学16名、北里大学1名、日本大学39名、東洋大学34名、駒沢大学15名、専修大学15名、東京都市大学3名、芝浦工業大学5名、順天堂大学11名、東京農業大学5名、神田外語大学8名、立正大学22名、共立女子大学4名、東京薬科大学1名、日赤看護大学1名、女子栄養大学3名、東京医療保健大学2名、国際医療福祉大学1名(医・医学科)

〈考察〉

- ①2021年度入試は、『大学入試改革』元年であったこと、また推薦制度に公私ともに総合選抜型入試が導入されるなど様々な変化の年であった。
- ②2017年度からの文科省の東京一極集中を避けるための東京都内の私大定員の11.3%条項(入学者が定員の11.3%を越えたら補助金が0になる。)が継続され、東京圏の私大合格者を絞る傾向が続いた。その影響を受け、2021年度入試では、各大学が大幅に『補欠合格』を出し、本校生徒も最終の進路決定に悩んだ生徒が数多く見うけられた。
- ③コロナ禍の中で、3月から5月の3ヶ月間、さらに11月に校内に感染者が出たことから2週間、授業が出来ない状況に陥った。こうした予期せぬ状況の中で進学学力を伸ばしきれなかった点は否めない。
- ④2016年度以降の卒業生から、四年制大学への現役進学者が7割を越える状況が継続され(2020年度は72%)、『進学校化』という学校改革目標が着実に進んでいる。

- ⑤東京圏の私大の難易度が高まっている中、早慶上理13名、MARCHのべ32名、日東駒専のべ103名が合格しており、厳しい状況の中であって生徒達は善戦した。
- ⑥進路学習指導部の部屋に一般受験対応の特進コース・一貫コースの職員室を集めたことが、教員の情報共有がし易くなり、進学指導のセンターとしての役割を大いに発揮出来た。

(3) 部活動と特別活動について

- ①部活動については、コロナ禍の中で、運動系・文化系多くの大会や発表会が中止となった。そうした中で、最後の発表の場、最後のまとめの場を失った3年生の心のケアに特に苦心した。そうした中であって生徒は出来る範囲で精一杯努力し、数々の立派な成績を残した。アスリート進学コースを中心とする部活動の主な成績は以下の通りである。

チアリーディング部	関東チアリーディング選手権 JAPAN CUP2020 全日本高等学校選手権大会	優勝 準優勝 準優勝
硬式野球部	夏季千葉県独自大会(選手権大会代替) 秋季千葉県高校野球大会 千葉市高校野球大会	ベスト8 ベスト8 3位
サッカー部男子	全国高校サッカー選手権千葉県予選	ベスト8
サッカー部女子	千葉県高校サッカー選手権大会	ベスト16
柔道部	千葉県新人柔道大会団体 千葉県新人柔道大会個人	3位 準優勝(1名) 3位(1名)
バスケットボール部	千葉県新人戦地区予選	1位通過
水泳部	千葉県高校選手権水泳大会 千葉県高校新人大会 全国通信制水泳競技大会(メドレーリレー) 800m自由形(女子) 100mバタフライ(男子) 200mバタフライ(男子)	4位 男子7位 女子3位 出場 1名出場 2名出場 1名出場

- ②コロナ禍の中で、以下の行事等が中止、延期を余儀なくされた。

- 高2の海外研修旅行→中止、●遠足(全学年)→中止、
- 語学研修プログラム(ブリティッシュヒルズ研修、オーストラリア短期留学、英語集中ゼミ、セブ島短期語学研修)→すべて中止
- 文化祭→短時間の開催とした、●体育祭→球技大会に替えた
- 合唱コンクール→延期、●保護者会→中止、

- PTA活動→ほぼ中断(一部広報活動などを実施)

コロナ禍は、これまで学校として培ってきた様々な行事等の経験や伝統も崩れてしまった。今後、どう立て直していくかが大きな課題である。

(4) 生徒募集の取り組み

①2021年度入試をめぐる情勢

- 千葉県内の中学3年生が前年度より2,000名減少し、それに加えて公立高校入試については前期・後期入試が廃止され一本化されるなど、様々な変化の中での募集となった。
- 今年度の公立高校の平均倍率は、前年度の1.35倍に比べ1.06倍となった。偏差値別で分析してみると、偏差値50以下の公立高校の倍率は1倍から1倍を大きく割り込む倍率となり、倍率がつくのは偏差値50以上の学校であった。この傾向は今後も続いていくことが予想される。

②今年度の本校の併願受験者を見ると、偏差値50以上の受験者が75%に達していた。一方、学校改革以前の2013年度受験生では、偏差値50以上の受験者は43%であった。本校がこの間、進めてきた『進学校化』という方針のもとに、生徒募集を受験生のボリュームゾーンで展開できる学校を目指してきたことが功を奏し、歩留まり率の減少は1.7%に留まり、歩留まり率は14.3%であった。

③2021年度入試は、受験資格の内申点をこれまでより実質1ポイント上げて募集を行った。その結果、総受験者数は、前年とほぼ同じ974名となった。

④夏休みまでの体験入学会等来校型イベントは一切実施出来ず、オンライン形式での実施となった。また、例年最大規模の参加者を得ている11月の第2回学校説明会も当初は来校型での実施を予定していたが、校内で新型コロナウイルス感染者が出たことからオンラインでの実施となった。当然のことながら、受験生は実際に学校を見て受験校を決める傾向があり、来校型の説明会があまり実施出来なかったことが受験生数に影響した点は否めない。

⑤結果として、2021年度入学生は、350名という募集目標に及ばず330名(内進生+高入生)となったが、初めて進学HSクラスの3クラス体制を実現することが出来た。

<結びに>

千葉県内の中学3年生の人数が大きく減少した今年度の生徒募集においても、本校が進めてきた『進学校化』という学校改革の下、受験生のレベルアップを着実に図ってきたことが功を奏し、減少幅を最小限に抑えることが出来たと考える。この学校改革は、小手先の改革ではなく、ここ数年間全教職員が心血を注ぎ、授業・補習体制を整え、部活動を活発化させ、生徒主体の学校行事の育成に奮闘努力してきた成果であることに他ならない。教職員と共にこの成果を共有し、現状に甘んじることなく今後更なる改善を図っていきたい。

6. 千葉明德中学校

2020年度は、2011年4月の開校からちょうど10年目を迎える節目の年度であった。この間、本校の評価も地域において定着しつつあり、入学志願者数・入学者数も順調に増え続けてきたが、2021年度入学者は、コロナ禍の影響が大きく、前年度より9名少ない62名2クラス体制となった。また、これまで5期生まで卒業生を送り出す中、中高一貫コース6年間の指導内容も充実してきたと言える。その柱となるのが「思考する学び」であり、総合学習や教科指導、また学校行事等で、探究心やプレゼンテーション力を育成してきたことが、上級学校に進学して以降も大きな力となっていると確信している。こうした取り組みの結果が、この数年の間に中学受験でも高く評価されるようになり、安定的な募集の成果へとつながっていると見える。

(1) 教育活動と成果について

これまで本校は、建学の精神に基づき、生徒一人ひとりの豊かな成長を目指し、教育目標である「行動する哲人」を具現化する人材を育成するために『思考する学び』への進化に取り組んできた。特に、高大接続改革や新学習指導要領といった教育情勢の変化を見据えつつ、本校が先進的に取り組んでいるICT教育を推進することで、本校の独自性を発揮した教育を実現してきた。具体的には、総合学習や教科指導等で、生徒一人ひとりが自らのiPadを活用することで、主体的・対話的な学びを推し進め、その成果をプレゼンテーションや課題研究論文を通じて発表している。また、それらの成果をeポートフォリオにより振り返る作業を積極的に行っている。これらの実践は、教員研修や他校との交流などを経て、絶えず新しい情報を得て指導内容を改善している。

(2) 進路指導について

2020年度一貫コース卒業生34名の大学合格実績

千葉県立保健医療大学1名

早稲田大学2名、東京理科大学2名、青山学院大学1名、法政大学2名、明治大学1名
立教大学1名、中央大学1名、日本大学6名、東洋大学1名、東京女子大学1名、順天堂大学1名、芝浦工業大学1名、成蹊大学2名、明治学院大学1名 他

〈考 察〉

一般受験については、情勢の変化、コロナ禍での受験となり、総合選抜型入試(プレゼンテーション入試等)による受験の割合が大幅に増えた。このことは、中高一貫コース6年間の教育の中で培ってきた情報収集力、情報発信力、プレゼンテーション力等が大いに活用できると考えられ、今後の入試において大きな可能性が見えてきた。

(3) 生徒募集の取り組み

2021年度入試も、これまでの募集体制を維持しつつ、学校説明会や模試などを実施してきた。説明会では、本校の教育の特長を積極的にアピールするために、iPadを活用した授業実践やプレゼンテーション等、生徒の活動を全面に出して募集を行った。

また、こうした特長を入試でも活用するために、適性検査型入試やルーブリック評価型

入試も継続し、独自性を打ち出した入試を実施した。今年度はコロナ禍の影響が大きく、受験者数340名、入学者数62名と、前年度より大きく減少した。これは、各種イベントが実施出来ず、募集活動を予定通りに展開することができなかつたことが大きく響いた結果であり、次年度の募集にあたっては仕切り直しを行い、募集活動を展開していく必要がある。

(4) その他の取り組みとその成果

① ICT機器の活用

- 全生徒がiPadを持つようになってから4年目を迎えた。これまでロイロノート、Google suite for education等のさまざまな教育プラットフォームを導入し、これら場面や状況に応じて柔軟に使い分ける実践を蓄積してきた。
- それぞれの授業では、デジタル資料の配布やオンラインによる課題提出によって、時間短縮や整理、効率的活用がなされてきた。
- 探究学習やプレゼンテーションでは、発表や意見交換など、スムーズかつダイナミックな展開がなされている。特に今年度は、コロナ禍でオンライン授業を大幅に導入することになり、それによるICT教育の急速な推進が図られ、教員もより高度なスキルの獲得を実現できた。
- iPad活用は授業にとどまらず、学年通信の配信や諸連絡、行事予定の確認などをダイレクトに配信できるメリットがあり、連絡がより迅速かつ効率的になされている。

② 総合学習の定着

- 1・2年生の『土と生命(いのち)の学習』の形が定着してきた。1年生は、校舎前に水田を作り代掻きから田植え、稲刈りまでを日々の変化を観察しながら実践できるようになった。2年生も同様に、校舎前の畑で自分達のテーマを持って夏野菜作りに取り組む形が定着した。そして、文化祭では、1・2年生合同班で、それぞれの体験をベースにテーマを決めてプレゼンテーションに取り組む体制も確立されてきている。
- 3年生は1年間かけて個別のテーマを設定し、ゼミ形式で『課題研究論文』に取り組む形が定着した。テーマも幅広く設定し、1年間かけて、一つのテーマと向き合った論文には、生徒の成長の証を見ることができる。

<結びに>

千葉明德中学校・中高一貫コースも開校以来10年が経過し11年目を迎える。卒業生を送り出すまでは厳しい入試が続いたが、2021年3月で5期生までを送り出し、受験生数も100人単位で増えてきている。まだまだ安定的な募集にはほど遠いが、入学生質に拘った入試を展開していく時期にさしかかっている。その為には第一に進学実績を高めること、第二に他校にはない教育を追求し、保護者・地域の期待に応えられる学校・中高一貫コースを目指していくことが必要である。気持ち新たに11年目の学校運営を進めていく。

6. 千葉明德短期大学附属幼稚園

(1) 保育方針に対する成果について

豊かな自然に囲まれた環境の中で、遊びや生活を通じて子どもたちが自らの意志と力で学び、育つという本園の保育理念とそれに基づく保育実践は、変わることなく引き継がれている。現在の保育指針、幼稚園・こども園の要領にも示されている通り、いま必要とされている「資質・能力」という括りの中にある知識や技能、思考力、判断力、表現力、人間性等の育ちは、本園における遊びにその多くが内包される。その一方で、子どもたちの主体性による自然科学的なアプローチを伴った興味関心、芸術分野の涵養による表現力の育成と、許容や受容にみちた人間性の獲得は、園からの能動的な働きかけが契機となり、大きな成長をもたらす可能性がある。2020年度はコロナ禍での制約があったものの、本園の環境を最大限生かした外遊びや学園内遠足等による多様な人間関係にふれる機会の創出、芸術を継続的に鑑賞する場の設定等、先述の資質・能力の育ちに寄与する取り組みを行った。それが、具体的に子どもの姿を形作るまでは時間を必要とするが、2021年度以降に向けて着実な一歩を踏み出したと考えている。

(2) 保育目標に対する成果について

短期大学の附属幼稚園として本来の密接な関係性の構築を目指し、様々な取り組みを推進してきた。園内研修では、一つに室内環境について短大教員の提案を実践し、その効果を検証した上で2021年度に引き継がれている。預かり保育の子ども対象の「あそぼうか～プロジェクト」では、自然環境における多様な遊びを体験。その流れを汲み、遊びは学年の日常の保育にも波及した。学園内遠足においては、中学校を訪問した他、短大教員の遊びの企画と連携するなど、「総合保育創造組織」としての強みを再確認し、園児や保護者からも好評を得た。さらにコロナ禍により僅かではあったが、短大のゼミ学生が子どもたちと関わる機会をつくった。2021年度以降はこの動きを更に強化、加速させ、短大の附属幼稚園としての強みと恵まれた園庭環境を保育に活かしきる取り組みを推進する。

(3) 園児募集の取り組み

様々な募集のための施策を行った結果、前年度比17名増となる67名の新入園児（1号認定3歳児）を獲得した。2020年度はコロナ禍のスタートとなり、園に足を運ぶことを躊躇される保護者も一定数いたかと思うが、職員一同で丁寧な保護者対応を意識し、園見学会の機会も前年度よりも大幅に増やしたことがこの数字に表れていると考える。また、ホームページの更新頻度を高め、現況を細やかに発信する等、コロナ禍における園生活の不安を取り除くよう努めた。さらに、預かり保育の枠を拡充したことも、一定の効果があつたと認識している。これらの取り組みは保護者間、地域における園への評価、選択基準に直結することから、今後も継続し定員充足率を高めたい。

2021年度は年中の園児が少なく、全園児数は減少しており、今後、学園組織としての強みを生かし、長期的な観点で組織力の改善を土台とした保育の充実を図り、引き続き

募集の安定化を目指す。

(4) 新たに行った取り組みとその成果について

前述したとおり、短大教員や学生との連携を強化し様々な取り組みを実施した。コロナ禍において園児を取り巻く状況は大きく変化し、多様な人間関係を築く機会が激減していると推察する。その意味で、学園内にある人的資源の有効な活用は、園児と学生、教職員も含めて互いの喜びや学びの機会となり、ひいては学園の魅力を広く地域にアピールする取り組みとなる。短いスパンで結果の出る取り組みもあるが、一方で長期的な観点で園児の心身の成長を支える取り組み、短期的な視点による結果至上主義とならない保育の在りようは幼児期の心の育ちに欠かせないことであり、職員の共通意識として継続性を持たせていく。

(5) 在園児数等について

280名でスタートしたが、転居等による増減もあり、最終的には277名であった。月別の在籍数、年齢別の在籍数、職員構成は以下の通りである。

【月別在籍数】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
在籍数	280	280	280	280	281	283	282	280	279	279	279	277

【年齢別在籍数／3月】

年齢	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
在籍数	15	15	66	83	98

【職員構成／3月】

職種	園長	副園長	主幹教諭	教諭	教諭パート	事務	職員パート	看護師パート	栄養士
人数	1	1	2	1(2)	18	1	3	1	1

(3月時：教諭2名育休)

7. 明德本八幡駅保育園

(1) 保育園運営方針に関する成果について

年間を通して定員を超過し安定した運営を図ることが出来た。懸念点として、1歳児園児の市外転出や、2歳児における兄弟姉妹との同一入園を目的とした転園が頻出していることが挙げられる。本年度は市役所と連携を取り、毎月の募集により減少を補うことが出来ていたが、年度後半から年度末は園児数の変動が多く、先の予測が難しい状況となっている。

【月別在籍数】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
在籍数	50	50	50	50	51	51	50	52	52	53	54	52

【年齢別在籍数／3月】

年齢	0歳児	1歳児	3歳児
在籍数	14	22	16

【職員構成／3月】

職 種	園 長	主 任	副主任	主任看護師	保育士	栄養士
人 数	1	1	1	1	9	1
職 種	パート(常) 調理師	パート(非) 調理員	パート(常) 保育士	パート(非) 保育士		
人 数	1	2	7	4		

補助金交付対象である特別保育事業は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策の観点から年間を通して休止した。体調不良児対応型保育事業は例年通り実施し、一時預かり事業においては新規児童の受け入れは行わず、登録済み児童のみ対応を行っている。それでも年間の延べ利用人数は、395名と一定の成果を上げることが出来ている。

(2) 保育目標と成果について

年度当初、保育自粛期間ということもあって欠席者が多かったことから、1、2歳児混合クラスにおける小グループ体制によるクラス運営の利点を、登降園時や日々の活動報告の際に保護者に知らせ、実施してきた。また、保育参観は、保育室の模様をライブ配信し、その映像を別室で見てもらおう形で実施した。生の子どもたちの様子を見てもらえ、保護者から高評価を受けた。

- ①組織をより一層統括すべく、0歳児クラス、1・2歳児混合クラスから各1名ずつ職員を選出し、協議しながら園や保育の方向性の下案を作成するなどして、職員の意見をボトムアップしてきた。初めての試みでもあるので、今後、課題を出し合い次年度に繋げていく。
- ②新型コロナウイルス感染症という未知のウイルスに対して、万が一感染者・クラスターが出た時の対応として、保育士体制を出勤者・在宅勤務者と二分化した。保育園において在宅勤務は初めてであったが、出勤者・在宅勤務者の連携を図るうえでラインワークスという無料のアプリを利用して職員間の意見交換を図ってきた。
- ③職員の自己研鑽としての研修は、zoom等の形式で開催されるものが増加したこともあり、コロナ禍においても継続することができた。

(3) 園児募集の取り組み

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策の一環から、地域子育て支援「ぽっぷスマイル」の開催は年間を通して休止した。同活動を軸とした園見学や地域子育て世帯へのPR活動は、園及びその保育の内容を周知する園児募集活動の重要な施策でもあったため、募集状況の低迷につながる一端となっていることが予測される。

(4) 新たに実施した取り組みとその成果について

保育園ホームページに「ぽっぷスマイル」ページを新たに追加し、保育園の情報を広報した。また、TwitterやFacebookと連動させたことで閲覧数が把握でき、掲載内容を検討することができた。「ぽっぷスマイル」のTwitterの閲覧数は以下の表の通りである。継続し

て掲載したテーマのうち、離乳食のレシピ、保育室の紹介の閲覧数が多かったことから方向性をつかむことができた。

日付	8/11	9/9	9/24	10/8	10/30	11/9	11/25	12/8
閲覧数	483	1901	498	512	443	436	384	986
日付	12/17	1/18	1/29	2/12	2/25	3/9	3/29	
閲覧数	413	288	1339	576	1026	853	137	

(5) その他

①近年、自然災害が多く発生しており、本園周辺も川に阻まれている地域であることから、大規模災害に備え避難情報発令時における保育園の対応方法の見直しを行った。また、防災気象情報に則り、警戒レベルに応じた保育園の対応を状況・時間ごとに図式化したものを保護者に配布した。

②新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策の取り組みに重点を置き保育運営にあたった。

●消毒方法、手順確認、消毒実施記録表の作成。

●体調確認表の作成及び記録。

※行政への報告にも必要なため、園児のみならず家族も含め、体調不良及びPCR検査受診への移行など状況、経緯が一目でわかる状態にした。

8. 明德浜野駅保育園

(1) 保育園運営に対する成果について

園児数については40名でスタートし、以下の表のような推移があった。新型コロナウイルス感染症の影響で職を失ったり、実家近くに転居したりと、転出入の相殺により数字に表れる以上に園児の入れ替わりがある一年であった。

在園児の兄弟姉妹の入園希望が多く、全員を希望通りに随時受け入れることができたことは、保護者との信頼関係の構築や保育園運営に成果があったと考える。

【月別在籍数】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
在籍数	40	40	39	40	40	40	40	39	40	40	40	41

【年齢別在籍数/3月】

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
在籍数	7	6	8	6	8	6

【職員構成/3月】

職種	園長	主任保育士	保育士	主任栄養士	看護師	調理師
人数	1	1	13	1	1	2

(保育補助1名)

(2) 保育理念及び保育目標と成果について

新規採用者6名を迎え、保育目標等を伝えながら体制作りをしていった。新年度早々、緊急事態宣言が発令され、職員の2/3出勤制を取る中でも「子どもを真ん中に」という本園の基本を大切にしながら保育を行ってきた。今までに経験したことのない状況と行政からの指示もあり、保育参加や行事の中止もやむを得ない中、本園の特性と明德学園の環境を活かして「おたのしみ会」や「秋の遠足」そして「卒園遠足」と「卒園式」を行うことができた。このことは、子ども達の成長発達や進級・進学にむけての意識向上に良い結果を生むことができた。

(3) 募集活動と成果について

認可保育園は直接的な園児募集ができない上に、今年度は見学者を園内に入れることが難しく、園舎の外から室内の様子を見て頂き、また、短時間ではあるものの入園希望の相談には丁寧な対応を心掛けてきた。入園予定者は、第一希望での入園申請が殆どで、本園の日頃の取り組みの成果が表れていると推測する。

(4) 新たに行った取り組み等とその成果について

新型コロナウイルス対応について

2019年度末より、新型コロナウイルスへの対応について、千葉市幼保運営課からの指示に従い、手指消毒やマスクの着用・衛生管理等の対策を講じている。

2度に亘る緊急事態宣言を受け、園児及び職員の健康観察を実施した。JR内房線浜野駅直結である立地を考慮し、お迎えの際に保護者は保育室に入ることをないようにし、玄関で待機していただき、感染リスクを下げるような取り組みを心掛けてきた。

また、千葉市の補助金を利用して、オゾン発生器や自動検温・手指消毒器、本園のキャラクターをあしらった足踏み式手指消毒器を導入し感染予防対策に努めている。その結果、現在に至るまで感染者や濃厚接触者等の報告はなく運営できている。

9. 明德やちまたこども園

(1) 運営方針に対する成果について

園児の在園数を安定化させ、収入の拡大を図ることを計画していたが、見込み違いもあり1号認定子どもの人数が定員充足率120%を超える状況になっていた。しかしながら各家庭の状況を確認の上、2号認定こどもへの移行希望による調整が実施されたことで年末には解消された。但し、2021年度も2020年度以上に1号認定こどもが多くおり、2021年度も引き続き調整を実施していく予定である。園舎の建て替えについては資金の積み立てを少しでも多くすることに心掛けている。園舎の建て替えにより乳児の床面積を広げることで更なる園児数の増員と、収入の安定化を考えたい。

(2) 教育目標などに対する成果について

教育理念を具体化したため、より具体的に日々の保育に生かせるようになった。また職員の「自己評価シート」にも「園の理念、方針を外部者に説明できるか」の項目は高得点

への記入が多くなっている。教育理念、教育目標への個人個人の意識が高まり浸透している姿と考える。

(3) 募集活動などに対する成果について

ホームページの閲覧は年間50,000件以上になっている。コロナ禍の為、人を集める外部に向けた行事は開催できないが、冊子やリモートを活用して外部との交流を持ち、こども園の存在を地域に周知していった。

定員オーバーの事もあり、2021年度の4歳児1号認定こどもの募集は出来なかったが、「定員が空いたら入園したい」と他園に入園しながら、順番待ちをする方も出た。

(4) 新たに行った取り組みについて

2020年度は、前年の事業内容の充実を考え継続しながら改善を行っていった。

外部への園情報の働きかけとしてリモートによる子育て相談や、親子遊びや読み聞かせなどを配信した。毎回親子が楽しみにしているとの声が上がった。子育て支援にかかわった就園前の子どもが入園する事例が多いことから新しい方法かと考えられる。

(5) 園内研修及び短大とのコラボについて

子ども達への活動「素材で遊ぼう」を通して、短大深谷特任教授、古賀講師と職員の研究体制が出来、「子どもの活動の意味・そこで育つもの・素材の持つ力」などの研究が設定できた。

この先、研究としてまとめ、保育学会などで「研究発表」を行い、保育者の資質の向上に向けていきたい。

「愛着関係を育む」ことについて文献研究を行い他者のレポートを読み取ることや、自らの日々の保育を振り返ることで、自らの資質の向上につなげていった。

【月別在籍数】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
在籍数	81	82	81	83	83	83	83	83	83	83	84	84

【年齢別在籍数/3月】

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
在籍数	6	8	11	20	22	17

【職員構成/3月】

職種	園長	主幹保育教諭	保育教諭(常勤)	保育教諭(嘱託)	保育教諭(パート)	栄養士	調理師	看護師	事務
人数	1	1	11	1	11	1	1	1	2

Ⅲ. 財務の概要

1. 事業活動収支の推移

(単位：千円)

		科目/年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	
教育活動収支	収事業の活動	学生生徒等納付	943,938	949,118	996,790	984,995	
		手数料	31,914	33,433	29,631	28,231	
		寄付金	10,287	14,580	11,453	14,250	
		経常費等補助金	933,936	1,088,950	1,181,173	1,238,727	
		付随事業収入	122,747	136,926	141,570	102,230	
		雑収入	114,689	113,964	82,413	43,745	
		教育活動収入計	2,157,512	2,336,971	2,443,030	2,412,179	
	支事業の活動	人件費	1,513,378	1,623,874	1,635,553	1,629,616	
		教育研究経費	370,801	417,598	472,923	425,892	
		管理経費	226,378	222,675	259,338	228,759	
		徴収不能額等	0	0	0	381	
		教育活動支出計	2,110,557	2,264,147	2,367,814	2,284,648	
	教育活動収支差額			46,955	72,824	75,216	127,531
	教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息配当金	411	521	515	515
教育活動外収入			411	521	515	515	
事業活動支出の部		借入金等利息	19,113	18,790	18,367	17,653	
		教育活動外支出	19,113	18,790	18,367	17,653	
教育活動外収支差額			△18,702	△18,268	△17,852	△17,137	
経常収支差額			28,253	54,555	57,346	110,393	
特別収支	収事業の活動	資産売却差額	50	0	0	0	
		その他の特別収	59,733	16,807	11,733	14,196	
		特別収入計	59,783	16,807	11,733	14,196	
	支事業の活動	資産処分差額	222	2,105	9,251	186	
		その他の特別支	13,672	13,672	16,000	13,672	
		特別支出計	13,893	15,777	25,251	13,858	
	特別収支差額			45,890	1,030	△13,517	338
[予備費]							
基本金組入前当年度収支差額			74,143	55,585	43,846	110,732	
基本金組入額合計			△86,039	△193,501	△46,844	△133,543	
当年度収支差額			△11,896	△137,916	△2,998	△22,811	
前年度繰越収支差額			△3,896,193	△3,908,089	△4,046,005	△4,049,003	
基本金取崩額			0	0	0	0	
翌年度繰越収支差額			△3,908,089	△4,046,005	△4,049,003	△4,071,814	
事業活動収入計			2,217,706	2,354,299	2,455,279	2,426,890	
事業活動支出計			2,143,563	2,298,714	2,411,432	2,316,158	

(注) 金額は、各項目において千円未満を四捨五入して記載しており、合計額が一致しない場合もある。

2020年度決算の基本金組入前当年度収支差額は、事業活動収入24億2,689万円に対し、事業活動支出は、23億1,615万8千円となり、1億1,073万2千円の収入超過となった。また、基本金組入後の事業活動収入は、22億9,334万7千円となり、事業活動支出との差額である当年度収支差額は、2,281万1千円の支出超過となった。基本金組入前当年度収支差額は、2012年度から9期連続の収入超過となった。

2. 施設・設備への投資額の推移

(単位：千円)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
施設関係支出	230,437	118,975	208,589	267,613
設備関係支出	24,401	16,497	17,966	57,988
合計	254,838	135,472	226,555	325,601

2020年度の主な施設関係支出は、部室棟建設資金2020年工事完了時の残金、1億5,897万円が建物支出に計上された。その他、高等学校2号館普通教室棟、及び特別教室棟全室のLED照明工事、体育館消火栓ポンプ交換工事、消火配管漏水対応工事が行われた。短期大学では50周年記念事業として、学生ホールのリニューアル工事を行い、学生の集う空間の整備を行った。構築物支出では、高等学校においてテニスコート3面の新設を行った。又、新設した「CHIBAMEITOKU 桜坂 Training Center」前1,250㎡の土地に人工芝を敷設し、各部活動のウォーミングアップ、ミーティングの空間として整備した。

設備関係支出では、中学校・高等学校において、PC教室のパソコン及びプロジェクター84台の入替を行った。また、中学校音楽室のグランドピアノの入替を行った。

管理用備品では、事務室プリンター、災害備蓄用、ガス発電機を整備した。

図書支出は、全部門合わせて1,656冊の購入をした。

3. 借入金の推移

(単位：千円)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
長期借入金	510,160	508,257	553,399	713,416
短期借入金	400,972	417,803	376,303	343,983
合計	911,132	926,060	929,702	1,057,399

(注) 各年度とも3月31日現在の残高を記載している。

長期借入金は、前期末残高5億5,339万円に対し、新規借入2億4,400万円、期中返済金8,398万3千円を計上し、期末残高7億1,341万6千円となり、前年比1億6,001万7千円の増加となった。短期借入金の期中運転資金は、借入6億1,000万円に対して、返済6億4,000万円であり、期中運転資金の借入残高は3,000万円の減少となった。その結果、返済期限が1年以内の長期借入金の減少を含めて、長期及び短期の借入金残高の合計は、前年比1億2,769万円増加し、10億5,739万円の残高となった。

